

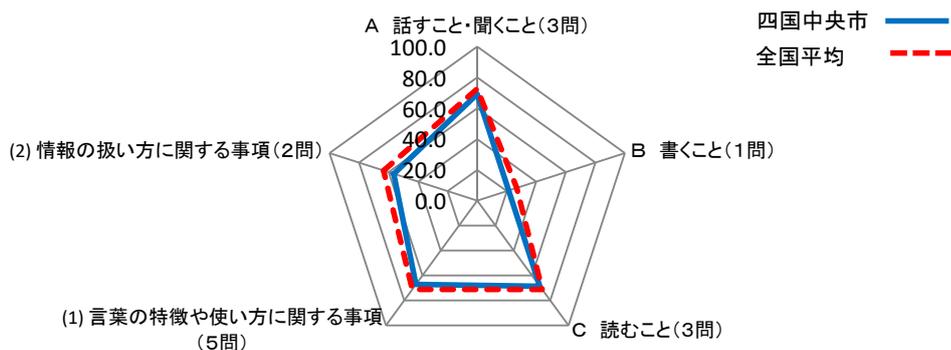
令和5年度全国学力学習状況調査の結果について四国中央市の小学生の状況についてお知らせします。

## 1 学力の状況

レーダーチャートは、各領域における正答率を示しています。項目の後の( )内の数字は、対象問題数を表しています。問題によっては、複数の項目に含まれる場合があります。

国語科では、「話すこと・聞くこと」「読むこと」において、昨年度と比較して向上しましたが、全国平均との比較では、平均正答率が下回りました。算数科では、「変化と関係」で昨年度より大きく向上しましたが、全国平均との比較では、下回っています。それぞれの分析は以下の通りです。

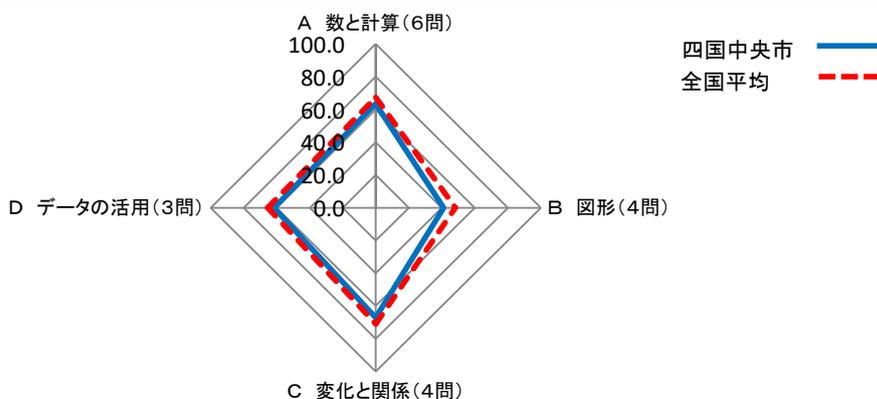
### 国 語



#### 【国語分析】

全領域で、平均正答率が全国平均を下回りました。特に「情報の扱い方に関する事項」において全国平均との差が最も大きくなっています。原因と結果など情報相互の関係を正しく読み取ったり、情報と情報とを関連付けて考えたり、その関係を図に表したりする力が弱いようです。また、記述式の問題において無解答率が高くなっています。自分の考えやその理由、根拠を文章に書く活動を進める中で、必要に応じて、文章の組立てなど構想段階で1人1台端末を有効活用し、表現力の育成に努めていきます。「言葉の特徴や使い方に関する事項」については領域全体では、全国平均を下回っていますが、日常よく使われる敬語の理解に関する問題では、平均正答率が全国平均を上回っています。今後も引き続き、授業や課題の中で、学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書き、語彙を増やし、それらを文章の中で正しく使用する力を育てていきます。

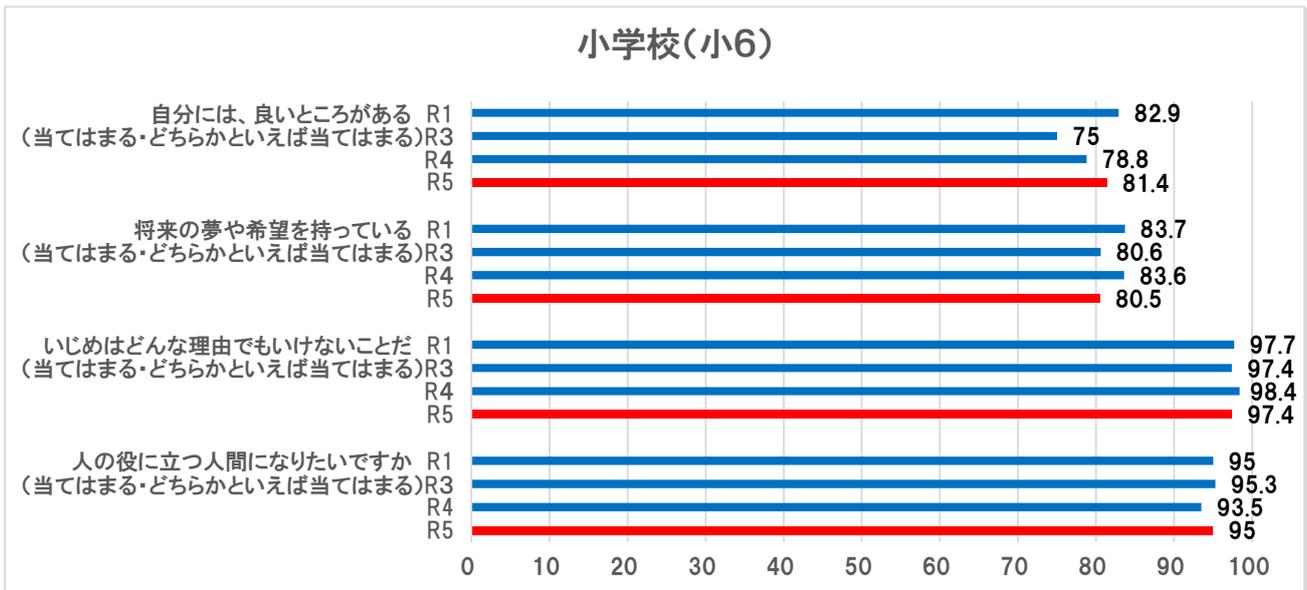
### 算 数



#### 【算数分析】

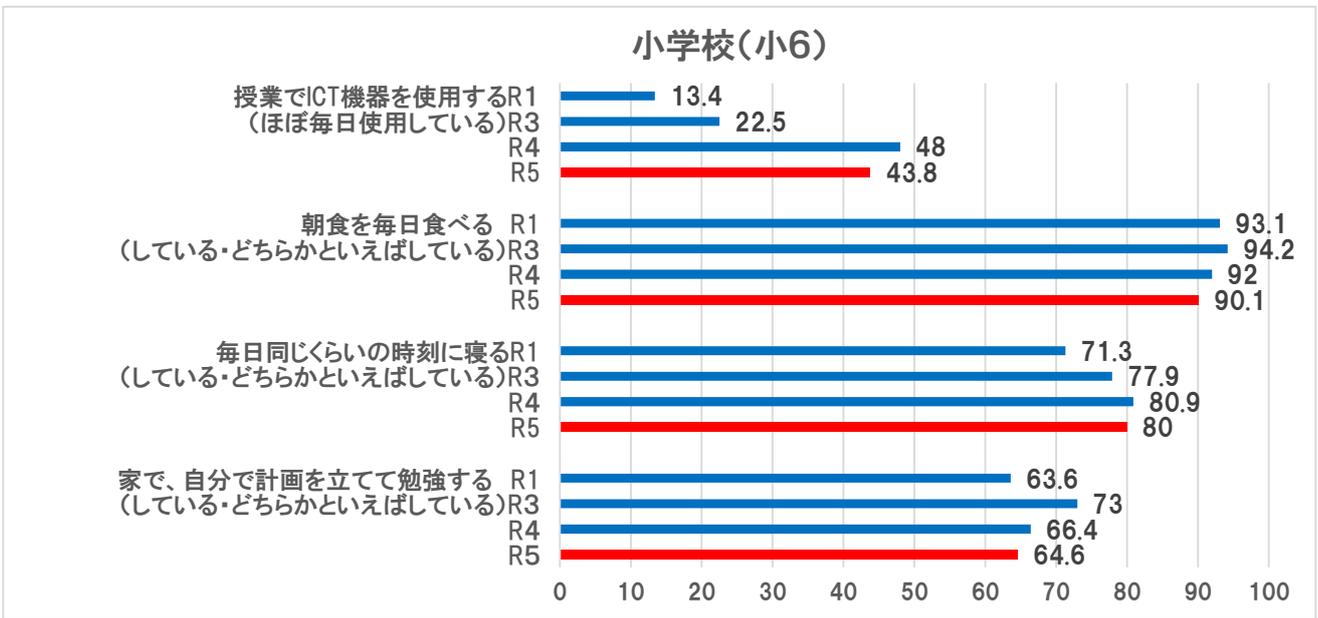
全ての領域の平均正答率が全国平均を下回り、特に「図形」領域における平均正答率が低くなっています。テープを切って開いたときの三角形を正三角形にするためにテープを切るときの角度を何度にするか、テープを直線で切った二つの三角形の面積の大小について答える問題について全問題中で一番正答率が低くなっています。授業の中で、実際に操作をしながら理解を深める活動とICTを活用して視覚的に捉える活動をとともに進め、図形に対する具体的なイメージを掴めるよう学習を進めていきます。加減乗除が混ざった計算や比例、表とグラフについては基礎的な内容が身に付いているので、それを活用して課題解決する活動も進め、思考力・判断力・表現力の育成に努めていきます。

## 2 心の状況



## 3 生活習慣の状況

※生活の中にICT機器が大きく関わってきていること、GIGAスクールの実現による確かな学力を基盤とした未来を拓く力の育成を目指している本市として、授業でのICT活用についての項目を昨年度から掲載している。



### 【分析】

心の状況については、「自分には良いところがある」「人の役に立つ人間になりたいですか」の項目が昨年度より、いずれも上昇しています。特別活動や道徳科の授業等の充実により、子どもたちの自己有用感が高まり、コロナ禍が終わったこともあり、少しずつ前向きに学校生活に取り組んでいる様子が伺えます。

「いじめはどんな理由でもいけないことだ」という割合は、昨年度より少し下がりましたが、以前として全国平均を上回っており、今後も、更に子どもたちが豊かな心を持ち、互いに認め合い、励まし合う活動を進め、自他を大切にできるような生き方ができるよう努めてまいります。

生活習慣の状況では、「毎日同じ時刻に寝る」「朝食を毎日食べる」は、ご家庭のご協力により昨年度に引き続き、高い数字となっています。「家で、自分で計画を立てて勉強する」は、昨年度より低下しており、全国平均と比べても改善が必要な項目となっています。学年の発達段階に応じて、宿題だけでなく授業の予習や復習、自分の興味・関心のある内容について、家庭学習に取り組む習慣が身に付けてくれることを望んでいます。今後も引き続き、1人1台端末の持ち帰りなどの取組を進め、自主的に家庭学習に取り組む児童の育成に努めてまいります。

ICTを活用した授業については、デジタルとアナログそれぞれの良さを生かした活動を授業の中で効果的に取り入れ、子どもたちにとって「分かる・できる」授業づくりを進めていきます。